

鴨下 賢一 (編著), 池田 千紗, 戸塚 香代子, 小玉 武志,
高橋 知義, 東恩納 拓也, 三和 彩 (著)

発達をうながすハンドリング —生活動作の介助のポイント—

吉 田 彬 人

(名古屋大学大学院, 作業療法士)



子どもにかかわる OT の実践技術のうち, 生活動作に特化したハンドリングが一冊の書籍にまとめられ, 出版された。本書を手に取りれば, 子どもの活動を豊かなものにしたいと願う全国の OT の情熱と, 積み重ねられた経験・分析に基づく技術を感じることができる。発達を促すことを目的としたハンドリングは, 生活動作を対象とすることで, 子どもたちが現在生きている社会または近い未来に生きているであろうと期待される社会により適応する技術となる可能性を秘めていることを再認できる。本稿をご覧いただいている今も, おおののフィールドで母親・父親の苦悩に耳を傾け, 他の専門職と協業する執筆者たちの活躍が想像できる。

編著者の鴨下氏が, 発達障害領域における作業療法の牽引役の一人として広く認知されていることはいうまでもない。多くの組織で役員等を務める他, 福祉用具の開発, 書籍の執筆等を行い活躍されている。しかし, 多彩な活動の本質は「臨床に対する誠実さを貫いていること」であり, これは, 編著者を象徴する表現であると思っ

ている。編著者と私が出会ったのは, 学術集会の場であった。当時の私は, 担当する子どもに対してどれだけの支援ができていたのだろうかと思ひ, 広く意見を取り入れたいと考え, その学術集会での事例発表に至ったのであった。発表に対するコメントを編著者から頂戴し, 何よりも臨床を重んじる発言に大変感銘を受けたことを今でも鮮明に覚えている。

実践的な本書は, 整容動作, 着替え動作, 食事動作, トイレ動作・お風呂動作, その他の生活動作と章を立てている。章ごとに生活場面を切り取ったような構成となっているため, 読者のニーズに合った生活動作から読み進めることも可能で, 読みやすい工夫がなされている。具体的には「歯磨き」, 「マスクをつける」, 「はさみを使う」等の生活動作ごとに, 社会的文脈や練習開始の目安となる発達段階についての説明があり, 次いで知識と実践がまとめられている。実践に関する内容では工程分析と写真が併用されており, 読者自身が担当している子どもと本書を照らし合わせてハンドリングが必要な動作を分析できるだけで

なく, 母親・父親や他の専門職に説明をする際にも参考になると思われる。一つの生活動作につき, 見開き 2~3 ページ程度でまとめられているため, 発達障害を専門としたい OT, 身体障害や精神障害を主な対象者としている病院等で子どもにもかかわる機会のある OT 等にも推薦したい。

末筆となるが, 本書を読むにあたって「はじめに」をご一読いただきたい。各生活動作のハンドリングに共通する思考を知ることができ, 実践的な本書を抽象化あるいは凝縮した内容の一端に触れることができる。他にも, 本書掲載の QR コードからアクセスできる Web 動画, 三輪書店の YouTube チャンネルでの執筆者たちへのインタビュー等が連動し, 子どもにかかわる全国の OT が仲間意識をもってつながり, 刺激し合える機会を提供していると感じる。「作業療法の実践」を感じる手段としても, 子どもにかかわるすべての方々に最良の一冊となっている。

B5 判 288 頁 2,800 円+税
三輪書店 刊
☎ 03-6801-8357